

明治11年(1878)の郡区町村編制法の施行により、青森県の津軽地域は東・西・南・北・中津軽郡に分割された。青森県の地図を見ると、不思議なことに北津軽郡の北側に東津軽郡の町村がある。しかし北津軽郡よりも東にあることで納得すると思う。旧弘前藩主(津軽家)がいた弘前から見れば、青森市や東津軽郡

は東側に位置している。東津軽郡の町村はすべて陸奥湾に面している。平内町は小湊が中心地。東北本線敷設当初、終着駅の候補とされたこともあった。付近には白鳥渡来地として有名な浅所松島がある。夏泊半島からは右に下北半島、左に津軽半島を控えた陸奥湾を望める。県立自然公園に設定されたのも頷けよう。



蓬田村上空から見た陸奥湾
(昭和37年11月7日・県史編さんグループ所蔵)

ホタテ養殖が盛んな、おいしいホタテのふるさとだ。

蓬田村は平成の大合併でも合併せず、東青地域で唯一の村となった。前方に陸奥湾を広く望み、後方に田畑が広がり、その奥には国有林が連なっている(写真参照)。蓬田村は農業中心の村で近年はトマトの栽培が有名だ。特にトマトケ

対比と調和の美学

東津軽郡の海と山

中園 裕

(県民生活文化課)

県史編さんグループ

主査

チャップが人気である。

蓬田村を北上すると旧蟹田町(現外ヶ浜町)となる。蟹田は外ヶ浜町役場があり、津軽半島北部の中心地である。国有林の占める割合が高い町で、戦前は森林鉄道による木材輸送の拠点でもあった。また久邇宮邦久が名付けた観瀾山は、陸奥湾を180度満喫できる拠点として見逃せない。近年は太宰治の文学碑があること

でも有名になっている。

さらに北上すると旧平館村(現外ヶ浜町)となる。臨海山村の様相を見せる平館は漁業中心の村。藩政時代の台場跡付近には当時の松並木が数多く残っている。もともと松前街道らしい場所だ。村の前面には下北半島が間近に広がり、蟹田からは違った意味で美しい眺めだ。なお、平館

にある不老不死温泉は津軽半島最古の温泉でもある。旧平館村を北上すると津軽海峡を望む今別町となる。ここ

は海峡の町である。斐月海岸は津軽国定公園の面目躍如たる美しい海岸線を有している。津軽線は海峡線と分かれた後に今別町を縦断し、今別駅から三厩駅へかけて津軽海峡に面して走る。五能線や津軽鉄道など、ローカル線が注目される現在、津軽線も県民が利用して支えたい鉄道である。津軽半島の行き着く先は旧三厩村(現外ヶ浜町)で

ある。龍飛岬や洞門など海岸線は奇抜であり、斐月海岸とは別な意味で美しい。

「階段国道」は全国的にも有名だ。この道路は国道指定前、階段ではなく急な坂道だった。しかし坂道の途中にある龍飛小学校(中学校併設)のために県が簡易的な階段を作った。その後、道路は昭和49年(1974)に国道339号線に指定された。だが付近を通る林道が整備されて迂回道路が確保されたため、階段付の道路は整備されずに残された。そのためかえて注目され、平成5年から8年にかけて、改めて県が立派な階段を作ったのである。

東津軽郡の町村はすべて陸奥湾と津軽海峡に接している。海と山が対比し両者の調和が美しい場所である。これは中弘・三八地域にはない大きな特色といえよう。東京県人会の方々も、東青地域に来て対比と調和の美学を満喫して欲しい。